

令和3年度 第4回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 2022年3月29日（火）11:00～12:00

出席者： 小田急電鉄株式会社

(敬称略) 学校法人工学院大学

住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京ガス株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都フェロー

東京都 デジタルサービス局

東京都 都市整備局

東京都 産業労働局

開催方法： Web 会議

- 議題：
1. 開会の挨拶《東京都宮坂副知事》※ビデオメッセージ
 2. 協議会参加者紹介
 3. 協議会の進め方・スケジュールの確認・新規プロジェクトの承認
 4. 【広報・巻き込み TF】
広報・巻き込みの取組結果・来年度の取組方針の報告
 5. 【課題解決 PT・都市 OS 検討 PT】
各テーマの取組結果・来年度の取組方針の報告
 6. 【仮説検証 PT】
課題調査結果・来年度の取組方針の報告
 7. 報告サマリ・意見交換
 8. 閉会の挨拶

資料： 1. 本編資料

1. 開会の挨拶（事務局）

■ 開会の挨拶（P.2）

（宮坂副知事）※ビデオメッセージ

- 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により活動が制限されたものの、デジタル技術を活用することにより協議会活動を推進することができたと思う。5月には5件の中長期プロジェクトが立ち上がり、さらに10月には2件の新規プロジェクトが採択された。また、1月には「西新宿Smart City WEEK 2022」を開催し、西新宿の未来像や取組内容を都民に発信することができた。
- 東京都としては、来年度に地域企業や大学など多様な主体が連携するコンソーシアムを組成する予定である。
- 対面では数人の意見を聴取することが限度であるが、デジタル技術の活用により、数十万人の意見を聴取することが可能となる。西新宿でも、デジタル技術を活用することで人と人をつなげ、まちづくりに主体的に参加する「スマートシチズン」を増やしていきたい。
- 西新宿では、まちづくりの検討も進められており、ハード面でも新たな変化の機運が高まっている。協議会でもこの機運を捉え、新たなまちの実現、生活者のQOL向上に向け、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 議事次第（P.3）

- 本日の協議会の目的は、西新宿スマートシティ協議会における各取組の結果を確認すること、新規プロジェクトを確認し承認いただくこと、来年度の取組方針を確認することの3点である。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

■ 協議会参加者紹介

3. 協議会の進め方・スケジュールの確認・新規プロジェクトの承認（事務局）

■ 西新宿スマートシティ協議会の概要、各PT/TFの位置づけ（P.5～8）

■ R3 年度会議体実施スケジュール全体像（P.9）

- 本日は、今年度の「西新宿 Smart City WEEK 2022」や各 PT/TF の取組結果と次年度の方針について報告する。

■ 新規プロジェクトの承認（P.10～12）

- 2月に実施した新規プロジェクト募集について、1件のプロジェクト候補を事務局で選定した。

（レスターエレクトロニクス株式会社）

- 「対話型キャラクターエージェント CHELULU」という無人対話型受付案内により、高層ビルや地下街が多い西新宿における街案内の課題を解決したい。
- 株式会社ソニー・ミュージックソリューションズが開発したアプリケーションであり、レスターエレクトロニクスが社会実装に取り組んでいる。

- 受付案内を対話型で実施し、人間らしい豊かなコミュニケーションを創出することを通して、「人と都市」が繋がる西新宿を目指していく。
- 実証実験においては、有人案内の省人化率や対話案内の完遂率等に着眼して機能性を検証する。

(事務局)

- 以上1件のプロジェクトの立ち上げ及びプロジェクト関係者のオブザーバー参加を提案する。
- 特段の異論がないため、プロジェクトの立ち上げとプロジェクト関係者のオブザーバー参加を承認する。

4. **【広報・巻き込みTF】広報・巻き込みの取組結果・来年度の取組方針の報告（事務局）**

- 広報・巻き込みTFの実施方針、全体像（P.13~15）
- 今年度の活動サマリ（P.16~17）
- 「西新宿 Smart City WEEK 2022」の HP は 2 万件近い閲覧をいただくと共に、クロストークの動画は 1,000 回を超える視聴をいただいた。
- 意見交換会はコミュニティメンバーを含めて計 47 名に、勉強会は 139 名の PT・TF メンバーに参加いただいた。
- 協議会の HP や LINE、VOICE は今年度も継続して実施し、ページビュー数などは昨年度に比べて高い数値を記録する結果となった。

- 「西新宿Smart City WEEK 2022」(P.18~22)
(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)
- 1/14（金）から 1/31（月）の 18 日間にわたり、西新宿の取組に対する認知・関心を高めて参画を促すことを目的に「西新宿 Smart City WEEK 2022」を開催した。
- 西新宿スマートシティ協議会の取組に加え、東京都事業による実証を巻き込むことで合計 19 のコンテンツについて発信した。
- 特設 HP では「西新宿 Smart City WEEK 2022」のイメージ動画にて目的や取組概要を発信し、お知らせやコンテンツ、カレンダーのパートにて個別の取組についての紹介を掲載した。また、環境改善委員会としてイメージキャラクターの LINE スタンプを作成することで協議会の公式 LINE 登録者の増加を図った。
- アンケート結果や LINE 友だち登録者数の推移から広報・巻き込み施策として一定の成果があったと考えている。来年度以降も継続して実施する予定である。

- Pre意見交換会・意見交換会の実施結果（P.23）
- 意見交換会は、Pre 意見交換会を含めて小田急電鉄株式会社にて 2 回開催いただいた。LINE コミュニティメンバーや工学院大学の学生に参加いただき、グループ討議を通じて参加者目線で Candle Night を盛り上げるためのリアルやデジタルの取り組みについて様々なアイデアを討議・共

有した。

■ 勉強会の実施結果 (P.24)

- 3/30 (水) の開催予定分を含めて計6回開催した。毎回20名以上の方に参加いただき、質疑応答や意見交換を行った。第3回協議会后は、2月に株式会社ジョルテ、ソニーマーケティング株式会社にて開催いただいております、3/30 (水) も損害保険ジャパン株式会社にて開催を予定している。

■ HP・LINEの活用結果 (P.25)

- 今後の予定を含めて 25 件の西新宿に関する取組の投稿や、各プロジェクトの進捗に合わせたホームページ改修等を行うことで一定のアクセス数を確保し、「西新宿 Smart City WEEK 2022」を開催した 1 月には最多アクセスを記録する結果となった。LINE については、32 回の情報発信に加え、効果検証アンケートを実施した。今年度を通じて友だち数は 1.5 倍以上に増加し、750 人を超える結果となった。「西新宿 Smart City WEEK 2022」期間中の広報や、仮説検証 PT で実施した生活者アンケートにおける案内の効果が特に大きかったと考えており、来年度も取組を継続していく予定である。

■ 来年度の取組方針 (P.26~28)

- 都民や西新宿の生活者に対して継続した訴求を行うことに加え、より一層のユーザーの巻き込みを図るため、オブザーバーとしての位置づけのコミュニティメンバーに対しての巻き込み活動に注力していく予定である。
- 今年度の活動を継続しつつ、参加型の意見交換会やVOICEを通じたプロジェクトや実証実験への参加呼びかけ、中長期プロジェクトを通じた効果的な情報発信などの活動を想定している。

5. 【課題解決PT・都市OS検討PT】各テーマの取組結果・来年度の取組方針の報告 (事務局)

■ 課題解決PT・都市OS検討PTの実施方針 (P.29~30)

■ 中長期的な視点での検討テーマの全体像 (P.31~33)

- 課題解決PTの4テーマと都市OS検討PTの1テーマの計5つを対象テーマとしている。
- 本日は新たに承認されたプロジェクトを除く計 7 つのプロジェクトについて報告いただく。

—以下各プロジェクトの説明—

テーマ① 地域の魅力創出 (P.34~38)

(小田急電鉄株式会社)

- 12/24-25にCandle Night @ Shinjukuを開催した。このイベントを軸として様々な事業者や地域の方々と連携するプラットフォームの構築を進めており、参加プレイヤー3社と提供コンテンツ4つを達成した。地域の小学生を中心に約1,500の方が塗り絵に参加し、イベント当日は昨年度より多い2,200人の方に来場いただいた。また、来場者のうち約6割が女性であったことから、女性が楽しめる場所が少ないという西新宿の課題に対して一定程度貢献ができたと考え、今年度は新

型コロナ感染拡大の影響により、周辺施設への波及や飲食系イベントの開催ができなかったものの、来年度以降は外部連携をさらに推進していきたい。

- 日本初のXRを活用した映画祭「Beyond the Frame Festival」を、オフラインでは12/16-19に、オンラインでは12/16-1/15に開催した。今年度から新規に開催した取組であるが、テレビ等での取材による魅力付けもありオンラインでは1万回以上の再生数となっている。今後も継続的に実施し、XR業界における西新宿の知名度を高めていきたい。

テーマ② 認知度向上・地域への参画促進 (P.39~46)

(東日本電信電話株式会社)

- ウォーキングコミュニティを全5回中3回開催(残り2回は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止)し、延べ21名に参加いただいた。
- 日本舞踊コミュニティを全5回中2回開催(残り3回は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止)し、日本語学校の生徒など7名に参加いただいた。
- 実施コミュニティ数、NPSスコア共にKPIを達成することができた一方で、リアルなコミュニティ開催における集客の困難さに直面した。来年度以降は他プロジェクトの活動支援を通じた課題解決テーマへの貢献を検討している。

(株式会社ゾルテ)

- 西新宿のイベント情報や施設情報をカレンダー型のWebサイトで配信し、1,133人のサイト閲覧者数を記録した。
- 配信情報として株式会社イベントバンク及びゾルダン株式会社が保有するイベント情報を連携したほか、飲食店及びギャラリーに集中した情報収集に取り組んだ。
- 今年度は情報発信のツールを構築した段階であり、情報発信媒体として機能していくためには情報収集の継続が必要である。来年度以降は、商店街や各施設、店舗に対して協力依頼を図るほか、他プロジェクトと連携した情報収集を模索していく。

(株式会社角川アスキー総合研究所)

- 西新宿 LOVE WalkerとしてSNSとWebサイトで情報発信を行った。月間平均で90本以上の記事を配信しており、月間40万ページビュー数と5万ユニークユーザーを達成した。Twitterのフォロワー数は12,500人程度で安定的に推移しており、西新宿の情報を閲覧したい層に適切に情報発信できていると考える。
- UGM (User Generated Media : 生活者参加型メディア) として、15の地域企業・団体と連携した記事を配信した。また、小田急電鉄を含めPT/TFメンバーと連携したコミュニティやイベントも検討中である。
- 「西新宿Smart City WEEK 2022」と連動した取組として、クロストークでのゲストおよびMC協力のほか記事配信を実施した。

- 来年度以降はYouTube Liveによる動画配信を推進したいと考えている。また、今年度は困難であった飲食店や各企業への取材を行ってきたい。

テーマ③ 移動環境の整備 (P.47~50)

(損害保険ジャパン株式会社)

- 東京都の公募事業で採択をいただき、「まちのインフラと協調した自動運転移動サービスの実証実験」及び「自動配送ロボットの公道実証実験」を実施した。
- 「まちのインフラと協調した自動運転移動サービスの実証実験」では、ヒトの移動をテーマに自動運転タクシーの走行実証を実施し、5Gを活用した信号情報等の車両連携やトンネルの壁面改良等により、まちのインフラと協調した技術的実証を行った。乗り心地に対するアンケート結果としては、96%の方に良いまたはやや良いと回答いただいた。
- 「自動配送ロボットの公道実証実験」では、モノの移動をテーマに、遠隔監視で自動配送ロボットによる配送サービスを実証し、飲食物の配送などを行った。配送サービスの満足度に対するアンケート結果としては、100%の方に非常に良かったまたは良かったと回答いただいた。
- 来年度は、自動運転に限らずMaaSなどの観点からも取組内容を検討する。

テーマ④ 新たなワークスタイルの確立 (P.51~54)

(株式会社KDDI総合研究所)

- 東京都の公募事業としてテント型の屋外ワークスペースを新宿中央公園と工学院大学に設置した。新型コロナウイルス感染症の影響により関係者限りでの実施となったが、通行人など延べ800人ほどの生活者に対して取組説明を行った。5G・AI・XRを活用することにより臨場感があるオンライン会議空間を実現できた。
- ジョブマッチングについては企業間の副業に向けた模擬活動として1つのプロジェクトについて全4回のディスカッションを実施した。
- KPIとして設定したワークスペース稼働率およびジョブマッチング参加組織数共に目標未達となったが、来年度以降の達成を目指して実証を拡大していく。

テーマ⑤ エリア共通基盤の整備 (P.55~59)

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 移動をケースとしたオープンスペース利活用を円滑化するためのデータライブラリ、ダッシュボードと人流予測シミュレータの3つのユースケースを構築した。また、各ユースケースに対し、データ・機能・ユーザビリティの観点から検証を実施した。
- データについてはオープンスペース21件についてデータ収集し、うち4件については規定した全項目を収集することができた。動的データについても人流データと環境データを合わせて6件収集した。地理空間データについては目的地・移動サービス情報の収集に加え、図面データをもとに3D都市モデルを構築した。今後のさらなるデータ収集には各データ保有者にエリアOSの有用性を理解いただく

必要があるという課題も判明した。

- 機能についてはデータライブラリ・ダッシュボードともに基本機能・データ管理機能・中核機能を構築し、エリアデータや3D都市モデルを可視化した。人流予測シミュレータについては滞在人口と歩道上の移動人数という2つの予測機能を構築した。
- ユーザビリティにおいては一部機能に改善の余地はあるものの、全体として高い操作性とサービス高度化への有用性を確認できた。来年度以降は今年度の取り組みを継続しつつ機能の改善を図る。
- オープンスペース利活用に目的や実装システム等を紹介するため、ランディングページを開設した。3つのユースケース及び3D都市モデルを紹介している。

■ 都関連事業の取組結果（P.60~70）

（東京都 デジタルサービス局）

- スマートポールの面的設置として今年度はサイン型とポール型を合わせて20基を設置し、昨年度の設置分と合わせて29基が設置済の状態となった。一部スマートポールに人流計測機能が備わっており、来年度以降は取得データの活用に取り組んでいく。
- 5G等活用サービス実証においては8者によるスマートシティサービスの実証を行った。中長期プロジェクトでも報告いただいた自動運転による配送や屋外ワークスペースの取組に加え、ARを活用した取組や乗換案内、高速通信Wi-Fi、混雑状況の見える化の取組を実施した。
- 自動運転移動サービス実証として、1-2月に自動運転バスと自動運転タクシーの走行実証を行った。
- 来年度は、西新宿に多様な主体が集積するコンソーシアムを組成し、継続的に新たなサービスが創出されるエコシステムを構築する予定である。コンソーシアム参画事業者に対してサービスの実装に向けた各種支援を実施するほか、大学等とも連携し、大学生等を対象としたDX人材創出についても取り組む。

■ 課題解決PT：今年度の取組結果サマリ・来年度の取組方針（案）（P.71）

- 仮説検証PTのアンケート結果を踏まえたプロジェクト計画の更新とプロジェクト間の連携強化による課題解決の推進、また新たな優先課題やエリア内の既存の取組の巻き込みに向けた新規プロジェクトの組成に取り組む予定である。

■ 都市OS検討PT：今年度の取組結果サマリ・来年度の取組方針（案）（P.72）

- エリアOSの機能改善やデータ拡充の際に想定される課題解消への取組や、スマートシティ運営の体制、インセンティブ設計等のルール検討を予定している。

6. 【仮説検証PT】課題調査結果・来年度の取組方針の報告（事務局）

- 仮説検証PTの実施方針・課題把握アンケートの実施方針（P.73~76）
- 生活者の課題調査の実施結果（アンケート①、②）（P.77~84）
- アンケート①は西新宿における優先課題の更新に向けた状況の把握と、西新宿の満足度を確認

してその要因を把握すること、アンケート②は西新宿の生活者がコミュニティメンバーに移行する上で有効な巻き込み策を把握することが目的である。西新宿の生活者に対して今年の2月に実施し、2,520人からの回答を得た。

- 優先課題の更新に向けては、はじめに相対的に充足度スコアが低い項目を優先課題の追加検討対象として抽出し、次に充足度スコアが相対的に高い項目を優先課題からの削除検討対象として抽出する。最後に追加・削除検討対象の課題を総合的に判断して優先課題を整理し、課題解決テーマとの紐づけを実施する方針である。一方で、優先課題の削除は経年評価結果等を考慮して慎重に検討する必要があるため、今年度は優先課題の削除は実施せずに充足度スコアの低い一部課題を追加するのみとする。
- 西新宿の各環境に対する満足度スコアは、昨年度と比較して横ばいもしくは増加となった。
- アンケート②について、西新宿の生活者に対する西新宿スマートシティ協議会の情報発信媒体の認知度は約15%前後であり、コミュニティへの参加ニーズについては、普段の生活やビジネスに生かすことができる知見を得られる機会や、スマートシティの取組への理解が深められる機会が上位を占める結果となった。
- 商店街・テナントの課題調査の実施結果（アンケート③）（P.85～88）
- アンケート③は西新宿の商店街・テナントが抱える課題を導出することが目的である。昨年11～12月に西新宿の商店街店舗やテナント、ビルオーナーを対象に実施し、65件の回答を得た。
- 調達・物流、マーケティング、販売、活動基盤の4つの観点における各上位2項目を優先課題として導出し、それぞれ親和性の高い課題解決テーマと紐づけた。
- 効果検証アンケートの実施結果（アンケート④）（P.89～91）
- アンケート④は、今年度実施した取組の効果を検証し、来年度以降に実施すべき取組のブラッシュアップにつなげることが目的である。今年3月にコミュニティメンバーを対象に実施し、48人からの回答を得た。
- 満足度向上の兆しを図るための設問については、協議会の課題解決に向けた取組全般に対して肯定的な回答を得ることができた。取組に対するニーズについては自由回答として意見を頂戴した。
- アンケートサマリと来年度の取組方針案（P.92～94）
- 従来の生活者の優先課題に、アンケート①で抽出した新たな生活者の優先課題とアンケート③で抽出した商店街・テナントの優先課題を加えて、西新宿における優先課題の更新案として今後運用していく。
- 来年度も同様の設問設計を通じて経年比較を行う予定である。また、課題把握のために一般社団法人スマートシティ・インスティテュートとの連携検討や、今年度の結果で得たコミュニティメンバーのニーズの活用等も行う予定である。

7. 報告サマリ・意見交換（事務局）

- 報告サマリと来年度の取組方針（案）（P.95～96）
- 西新宿の課題解決に向けた各プロジェクトの推進に関する討議（P.97）

(発言者A)

- 先端技術を活用したサービスが技術的課題を乗り越え社会実装に向かっている点が素晴らしい。今後とも先端技術を取り入れながら、より高次元のスマートシティを目指していただきたい。

8. 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶（P.98）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- デジタル技術の活用により生活者の声をまちづくりに反映していく過程が大切である。継続的なまちづくりを可能にする推進体制や事業スキーム等の検討が求められている。環境改善委員会としても役割を果たしながら、都庁との連携を強めていきたいと考える。引き続きご協力の程よろしくご願いい申し上げる。

以 上